

小さな成功体験を 積み重ねて

好日苑

社会福祉法人春秋会 特別養護老人ホーム
北九州市小倉南区曾根新田北3-2-1
入所70名/短期入所16名
平成10年9月に開設。
自然豊かな環境で、散歩などに出かけたり
家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう努めている。

応募の動機

慢性的な人材不足により職員の負担増や疲弊が課題となる中、業務改善を進めたいものの新たな取組への抵抗感がありました。そんな折、「業務の見える化」と「専門家の伴走支援」を行う北九州モデルに魅力を感じ、応募しました。



取組の内容と現場の変化

取組内容	業務分担	コール対応	情報共有
問題・課題	記録・荷物チェック・見守りなどリーダーの業務量が多い	コールが重なり対応が大変	記録媒体が多く、確認するものによって情報把握にばらつきが出る
取組	業務スケジュールや、職種・勤務シフト間の調整など、リーダー業務の見直しを実施	①センサー使用状況のリスト化、設置基準の明確化を行った ②対象者を絞って睡眠データを活用し生活リズムの見直しを図った	・音声記録の導入 ・先行施設の取組を参考に導入行程を検討
効果	リーダー業務の負担感減 10段階評価 8 → 5.3	①夜間コール回数(2日間平均)減 78回 → 13.5回 ②昼夜逆転の改善	限定した項目から音声入力を開始したことで、大きな混乱なく定着してきている

センサー活用の成果と職員の意識変化

導入していたものの上手く活用できていなかった見守りセンサーですが、伴走支援を通じて設定を見直し、睡眠データの活用を始めた結果、**夜間のコール回数の減少**や、**生活リズム改善につながり**、職員負担が軽減、ケアの質も向上するなど、見守り機器を最適化できました。職員の意識も高まり、自然とデータを見て意見が出るようになりました。

先行施設を参考に、記録の音声入力に挑戦

音声入力導入にあたっては**先行施設を見学し、限定的な運用から段階的に拡大**する方法を学び実践しました。当初は従来の記録方法との併用が必要でしたが、活用範囲を広げて記録業務を効率化できました。項目によってタブレット入力と音声入力を使い分けるなど、**現場に合った活用方法を模索**しながら業務改善が進んでいます。

今後の展望

人手不足の中では、業務改善そのものが新たな負担と感じられ、現場の理解を得ることが難しい場面もあります。取組では、改善の目的や必要性を丁寧に共有しながら、**小さな成功体験を積み重ねていく**ことを重視しました。**「まずやってみる意識」「やれば変わるという実感」**を大切に、これからも、より良いケアと働きやすい職場環境の両立を目指していきます。

